



 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

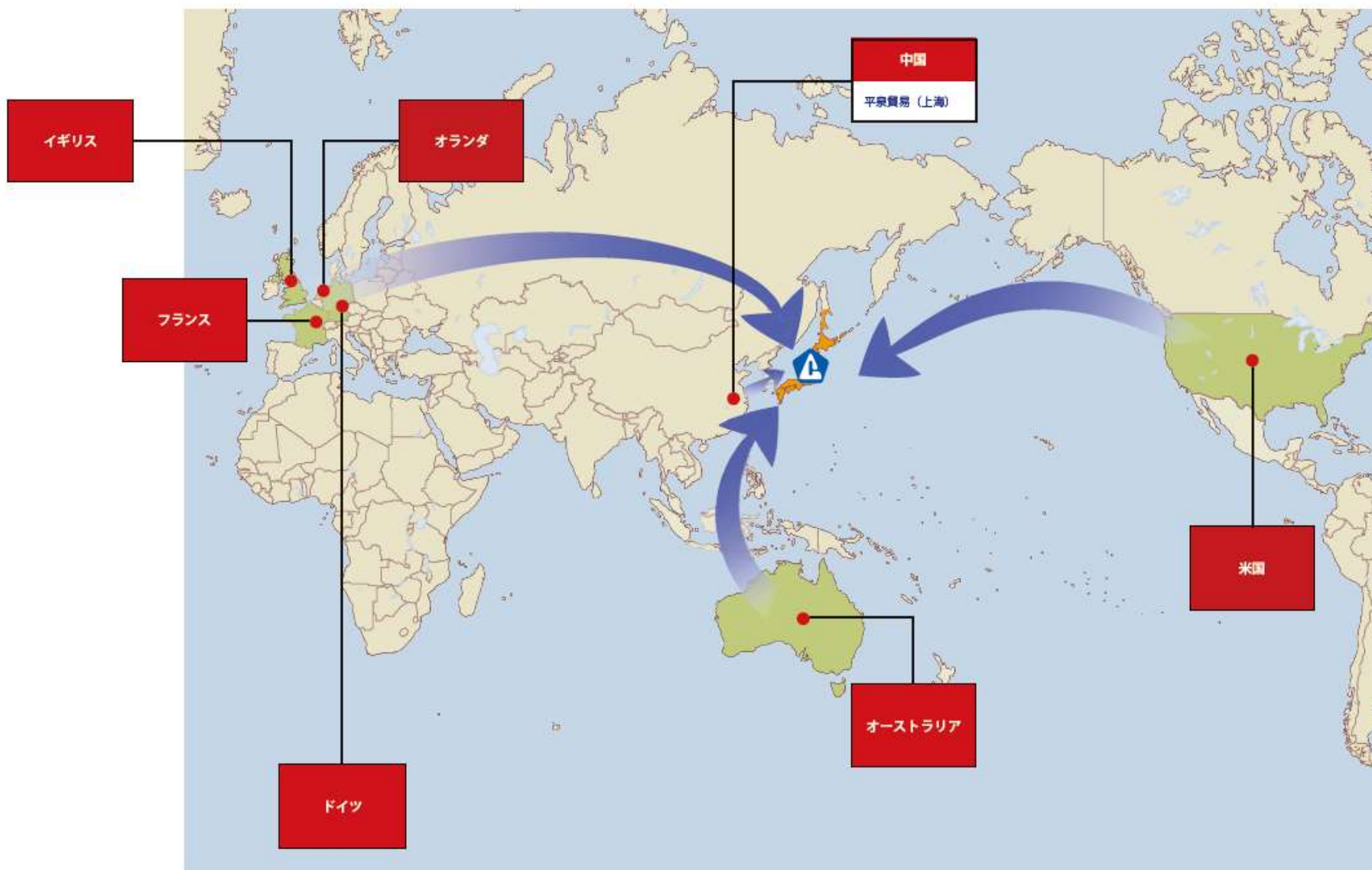


The Chemical Experts

会社概要

設立年月日	1950年6月29日	
代表取締役社長	戸張 傳二郎	
資本金	5,000万円	
本社 営業所 倉庫	本社	〒111-0052 東京都台東区柳橋2-19-6 Tel: +81-(0)3-3865-3621 / Fax: +81-(0)3-3865-3638
	関西営業所	〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-25-13 Tel: +81-(0)6-6447-1250 / Fax: +81-(0)6-6447-1444
	名古屋営業所	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-18-5 Tel: +81-(0)52-203-1637 / Fax: +81-(0)52-203-1639
	九州営業所	〒804-0067 福岡県北九州市戸畑区汐井町1-6 Tel: +81-(0)93-883-5548 / Fax: +81-(0)93-883-3566
	葛飾倉庫	〒124-0001 東京都葛飾区小菅3-13-5
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・ 各種ファインケミカル製品及び工業薬品の輸出入販売 ゴム・ ウレタン・プラスチック・その他各種機能性樹脂の輸出入販売・ 上記の素材加工及び加工製品の販売・ ゴム・プラスチック等の製造加工機械及び測定・試験機器の輸出入販売・ エラストマー舗装工事仲介・ 前各項に付帯する一切の事業	

平泉洋行のグローバルネットワーク



業務領域



1920年、ドイツ・バイエル社の有機ゴム用薬品（加硫促進剤および老化防止剤）を輸入し、日本のゴム企業に販売したのが平泉洋行の始まりです。現在は、ポリマー、ゴム薬品などのゴム原料、ウレタン原料、熱可塑性エラストマーなどの原料を取り扱っています。

関連商品・特殊品



お客様のニーズをすばやく把握した製品を取り扱っており、あらゆるゴムやウレタン、コンポジットの離型に効果を発揮する環境に配慮した水系の離型剤やパージ剤、炭化水素樹脂などの販売も行っています。



ゴム・エラストマー原料

株式会社平泉洋行

機械・ソフトウェア



1959年、イギリスのWallace Instrument社の販売代理店契約を行い、それ以来、ゴム用試験機、成形加工機械、プラスチック試験機、ポリウレタンフォーム・エラストマー用試験機、タイヤ生産機械・試験機など様々な機械を取り扱っています。また、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂の成形支援ツールとして、設計品質の向上、開発リードタイムの短縮、開発コスト削減を実現できるCAEソフトウェアも取り扱っています。

H&K製品



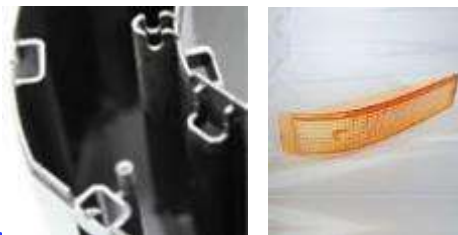
業務領域

エッチ・アンド・ケー株式会社は、1973年に化学製品専門商社である株式会社平泉洋行が旧西ドイツのポリウレタンメーカーからの技術を導入し、日本国内での製造・販売を目的として設立されたウレタンシステムハウスです。長年培った配合ノウハウを活かし、お客様の要求に合ったカスタムメイドの製品を提供・提案する開発型の企業として、国内外のメーカーにポリウレタンシステム原料を供給しています。開発・製造された接着剤、注型剤、弾性舗装剤、ウレタンフォーム、特殊水性塗料などは、さまざまな分野で、試作から量産品に至る幅広い用途に使用されています。



工芸・ホビー用
治具用途

ハイ・キャスト
(小売・業務用/工業用)



真空注型
低圧RIM

H&K株式会社



ピーラブル
ソフトフィール

接着剤
フォーム
弾性舗装材

ハイ・アド

ハイ・メックス





海洋汚染問題への当社の取組み

(株)平泉洋行では、SDGs(No.14)に関する海洋汚染問題に積極的に取り組んでおり、SEABIN（シービン）とJELLYFISHBOT(ジェリーフィッシュボット)の2製品を展開している。

海洋汚染問題には水生生物への被害も確認されており、プラスチックごみ、マイクロプラスチック、重油漏洩などがあるが、浮き橋に固定して使用するSEABINとリモートコントロール（又は自動運転）にて使用する海洋ドローンJELLYFISHBOTを用途に応じて使い分けることによって、地球環境問題の解決に貢献していきたい。

また継続的（Sustainable）な取組とするためのコミュニティの形成（パートナーシップ）を大切にし、循環型社会（資源をリサイクルする社会）の形成を目指す。



JELLYFISHBOT



SEABIN

めざすべき姿

- ・ 海洋プラスチックごみの削減（資源化）
- ・ 廃プラスチックごみゼロを目指す（資源化）
- ・ 新たな建築材料を創造する【建築業界の課題】

循環型社会の構築・CO2発生量の削減

実現するための方法

東大生産研のボタニカルコンクリート技術はコンクリート瓦礫と植物を処理することによって新しい建築材料をつくるものである。この技術を使うことによって、海洋浮遊ごみを自然物、人工物（プラスチック種類も分別せずに）、コンクリート瓦礫と処理することによって資源として再利用できる可能性が広がった。実証実験および社会実装を視野に、協力できる企業様をみつきたい。

海洋プラごみの課題

マリーナ・漁港において

海洋プラごみを回収してみると自然物が8割程度で、その他プラスチックごみ等が多く混在しており、マイクロプラスチックも大量に回収されるが、このプラスチックごみは多層構造のものや、PP,PE,PSなど多くの種類が混在し分別が困難である。

(図はシービンで回収した海洋浮遊ごみ)

また、マリーナ・漁港において自分たちで浮遊ゴミを回収してしまうと自分たちの費用で廃棄しなければならないので、回収は必要最低限で済ませているのが現状である。



海洋プラスチックごみ & 廃プラスチックごみの資源化・（循環型社会）の実現

Circular economy



海洋ごみ



落葉



事務所プラスチックごみ(PP,PE,PS等混在)

容器包装リサイクル法にて回収されても50%は再利用できていないのが現状



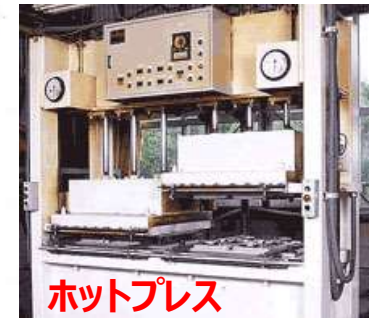
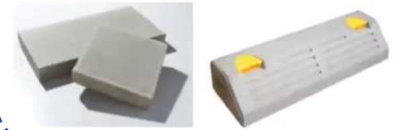
再利用 Recycling



粉碎机

小型のコンクリート製品

(必要に応じて防腐処理)



ホットプレス

◎機器類は未選定のため全体イメージとして配置



コンクリート瓦礫粉末



乾燥機



ビジネスとして成立させるためのビジョン（社会実装案）

